

「ハーセプチン療法」について

この治療法は、HER2 タンパクが過剰発現している乳癌に対して手術後に行われる代表的な治療法で、手術の前後や転移・再発に対して用いられています。「HER」とはハーセプチン(Herceptin)の略称です。

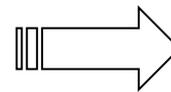
1. 投与方法

薬剤	効能または使用目的	投与時間
トラスツズマブ(ハーセプチン)	抗がん剤	90分
生理食塩液	点滴ルートの洗浄	約5分

2. スケジュール

HER 療法は21日サイクルで抗がん剤を投与していきます。初日にハーセプチンを投与すると残りの20日間は「休薬期間」といい、体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進みます。

	1サイクル(21日間)	
	1日目	2日目~21日目
投与日	○	
休薬日		○

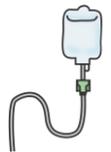


3. 特徴

●ハーセプチン

作用: がん細胞の表面にある HER2(ハーツー) 受容体への刺激をブロックしてがん細胞の増殖を抑制します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感を感じたらお知らせください。



4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にしていただきたいと思います。)

注射時反応(Infusion reaction)

好発時期: ハーセプチンの注射が開始になってから**24時間以内に現れやすい症状**です。

主な症状は発熱・悪寒(さむけ)などです。まれに頭痛や倦怠感などが起こることがあります。

異常を感じたらスタッフにお知らせください。

2回目以降は起こりにくくなるのが特徴です。

対策: 解熱剤が処方になっている場合は、症状に合わせて服用してください。

心機能低下

心機能が低下すると疲れやすくなり、息切れ・息苦しさ(座椅子などに座っているときのほうが横になっているより楽な状態など)、手足のむくみ、などの症状が出てきます。重篤になると心不全を起こすことがあるため注意が必要です。

好発時期: 治療が進むにつれて起きやすくなっていきます。

対策: 心臓の検査を行い評価します。

状態によってはハーセプチンを休薬して回復を待ったり、場合によっては投与中止となることもあります。もともと循環器系の病気をお持ちの方は、正常な方より症状が出やすくなります。上記のような自覚症状が現れた場合は早めにご相談ください。



間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。確率は低いですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ・呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

対策: 初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。



※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院

代表:TEL 028-626-5500